
三人目のNANA

如月乙姫

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

三人目のNANA

【ZIPコード】

Z0725F

【作者名】

如月乙姫

【あらすじ】

主人公は誕生日に京都から上京する。^{トランプ}TRAPNEST、^{ラスト}BLA
CK-^{ロゼクロ}STONES、ROSEN-CROSSの三つのバンドが絡
みあう。恋、バンドの運命は…？

NANA -中島奈菜-

私の生まれ故郷は

古き華やかな京の街で

古い建造物が並んだ観光地だ

私は一人っ子で

料亭を営む両親に
甘やかされて育ち

街でバンドを組んでいた

その街ではちょっとした有名人で
熱い追っかけファンもいた

毎日バンドに明け暮れて
彼氏がいるわけでもなく

そんな生活にも飽きて

3月23日

二十歳の誕生日に

私は自分で自分に

誕生日プレゼントを買った

東京までの片道切符

そして今
上京する

手荷物は
ギターと煙草があればいい

「どれもこれも高すぎ〜〜！！安いところないの？」駅前の不動産屋にいた奈菜は物件を見ながら呟いた。
「これ以上安いところね…駅から少し離れるが…」不動産屋の関さん（63）は一枚の紙を差し出す。
「安つ！！ここにしたい」

「見に行くかい？」

奈菜は頷き、物件を見に向かった。

多摩川沿いの7階建てのマンションで、難と言えばエレベーターがないことくらいだった。

708号室は日当たりも良くて、一日惚れした。
その日のうちに契約して、翌日には入居した。

入居して2日後。

「ちょっと待つてよ〜！ナナ！」

「早くしろよ、ハチ」

奈菜が部屋から出た時に聴こえた声は隣の707号室の住人だった。

「あれ？…708号室の人ですか？」

ハチと呼ばれた子が話しかけてきた。

「え…はい」

「急にゴメンなさい。あたしは小松奈々です」

奈菜は名前に驚いた。

「へえ…新しい住人だったのか。私は大崎ナナ。宜しく」

またまた驚いた。

「…なな？…珍しい名前でもないか…」

奈々がニコッと笑い

「あたしたち二人とも名前が一緒なんです。えーと…名前は？」

と、言う。

「あ…「メン。私は中島……中島奈菜です」

二人が一瞬固まった。

「「奈菜！？」」

一人の声にびっくりする。

「はい…奈菜です」

「…奈菜ちゃん…歳は？」

奈々の質問に

「ハタチです」

と、答えるとナナが

「歳も同じか」

と、言いつ。

ナナがニコッと笑つて握手を求めて来た。

私は握手する。

「宜しくね、奈菜ちゃん。いつでも遊びにおいでよ。待ってるから」

「いらっしゃいそ」

奈菜と一人のNANAの出会いだつた。

名前が同じと言つなんとなくの親しみですぐに仲良くなつた。

奈菜とナナにはもう一つ共通点があつた。

「へえ…ナナはバンドやつてたんだ」

「でも、ドラマがいなくてさ…」

ナナは煙草に火をつけた。

「奈菜は音楽とか興味ないの？」

「私も地元でバンドやつてたんだ。でも、本来はボーカルだし…」

奈々は驚いて

「そーなの？ねえ、ナナ…奈菜にプラスチの練習見てもらおうよ」と、ナナに言いつ。

「それいーな！今夜、暇だつた来てよ。メンバーにも紹介したいからさ」

「わかつた。早く会いたいな」

三人の明るい笑い声が響いた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0725f/>

三人目のNANA

2010年10月15日21時34分発行